

令和五年度 後期日程 文学部 日本・中国文学科
入学者選抜学力検査問題 国語

[注意]

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 5 この冊子の問題は余白を含めて十二ページ、解答用紙は一枚からなっている。
- 6 この冊子のうちに落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 この問題の内容に関する質問には答えない。
- 8 この問題の満点は百点であるが、科目配点に応じて三百点満点に換算する。
- 9 字数制限のある解答では、句読点や括弧なども字数に含める。
- 10 試験時間中の退出は認めない。
- 11 問題冊子は持ち帰ること。

十ページ

〔三〕 文章中 後ろから二行目（下方）

（誤） 始 知 其 剣

（正） 始 知 其 剣

一 次の文章は、ある書籍のまえがきである。これをよく読んで、後の問い合わせに答えよ。なお、設問の都合で、文章の一部を省略したり、表記を改めたりしたところがある。(40点)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(川崎謙『神と自然の科学史』による)

問一 傍線部①～⑩について、カタカナは楷書の漢字に改め、漢字はそのよみをひらがなで記せ。

問二 傍線部Ⅰ 「外国語を知らない人は母語をも知らない」とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部Ⅱ 「思い込むことができれば」について、筆者がこのような表現を用いた意図を考えて、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部Ⅲ の古川柳には、誰の、どのような心情がこめられているか。詠みこまれた情景をふまえて、わかりやすく説明せよ。

問五 傍線部Ⅳ 「西欧自然科学を育み発展させてきた人々に浮世の同士を見つける」とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

問六 A に入る作品名を、次の a～e の中から一つ選べ。

- a 奥の細道
- b 新撰犬筑波集
- c 謹風柳多留
- d 古今夷曲集
- e 西鶴大矢数

(余

白)

次の文章は、まだ少年の若小君がある荒れ果てた邸を訪れる場面である。これをよく読んで、後の問いに答えよ。(30点)

東面の格子一間あげて、琴をみそかに弾く人あり。立ち寄りたまへば、入りぬ。「あがなくにまだきも月の」などのたまひて、簫子のはしに居たまひて、「かかる住まひしたまふは、誰ぞ。名のりしたまへ」などのたまへど、いらへもせず。内暗なれば、入りにし方も見えず。月やうやう入りて、

立ち寄ると見る見る月の入りぬればかげを頼みし人ぞわびしき

また、

A 入りぬればかげも残らぬ山の端に宿まどはして嘆く旅人

などのたまひて、かの人の入りにし方に入れば、塗籠あり。^Iそこに居てものたまへど、をさをさいらへもせず。若小君、「あなおそろし。音したまへ」とのたまふ。「おぼろけにては、かく參りきなむや」などのたまへば、けはひなつかしう。^{II}童にもあれば、すこしあなづらはしくや覚えけむ、

かげろふのあるかなきがにほのめきてあるはあるともおもはざらなむ。

とほのかにいふ声、いみじうをかしう聞こゆ。^{III}「とどおもひまさりて、「まい」とは、かくてあはれなる住まひ、などとしたまふぞ。誰が御族にかものしたまふ」とのたまへば、女、「いさや、なにかは聞こえさせむ。かうあさましも住まひし侍れど、立ち寄り訪ふべき人もなきに、あやしくおぼえずなむ」と聞こゆ。君、「うときを」としもいふなれば、おぼつかなきこそ頼もしかなれ。いとあはれに見えたまへれば、えまかり過ぎざりつるを、思ふもしるくなむ。親ものしたまはざなれば、いかに心細くおぼさるらむ。誰と聞こえし」などのたまふ。いらへ、「誰と人に知られざりし人なれば、聞こえさすともえ知りたまはじ」とて、前なる琴をいとほのかに搔きならして居たれば、この君、いとあやしくめでたしと聞きるたまへり。夜一夜物語りしたまひて、いかがありけむ、そこにとどまりたまひぬ。

(『うつほ物語』による)

(注) ○東面の格子……寝殿の東側の部格子。 ○あかなくにまだきも月の……『古今和歌集』雜上 在原業平「惟喬親王の狩りしける供にまかりて、宿りに帰りて夜一夜、酒を飲み物語をしけるに、十一日の月も隠れなむ」としける折に、親王酔ひて内へ入りなむとしければよみ侍りける あかなくにまだきも月の隠るるか山の端逃げて入れずもあらなむ」 ○内暗……内部が暗いこと。 ○塗籠……周囲を壁で塗り込めた部屋。 ○童……元服前の子供の姿。 ○かげろふ……虫の名。トンボに似て小さく弱々しげで生存期間が短いため、はかないもののたとえとされる。 ○うときを……『古今和歌六帖』五 紀友則「語らへば知らぬ人なくなるといふをうときといかで馴れこころみむ」によるか。

問一 右の場面に登場する人物は男女それぞれ何人か、数を記せ。

問二 波線部 ア～ウについて、それぞれ文法的に説明せよ。

問三 傍線部 I～IIIについて、主語・指示語を明らかにして現代語訳せよ。

問四 Aの和歌について、比喩を明らかにして、歌全体の内容を説明せよ。

次の文章をよく読んで、後の問い合わせに答えよ。なお、設問の都合で送りがなを省略したところがある。(30点)

某中丞巡撫上江、一日遣吏齎金三千赴京師。途宿古廟中、局鑄甚固。晨起已失金所在、而門鑰宛然。怪之、帰告中丞。中丞怒、亟責償官。吏告曰、償固不敢辭。但事甚疑怪。請予假一月、往蹤跡之。願以妻子為質。中丞許之。比至失金處、詢訪久之、無所見。將歸矣、忽於市中遇瞽叟、胸懸一牌云、善決大疑。漫問之、叟忽曰、君失金多少。曰、三千。叟曰、我稍知蹤跡。可覓車子乘我、君第隨往、冀可得也。如其言、初行一日、踰亭午、抵一大市鎮、叟曰、至矣。君但入、當自得消息。不得已、第從其言。比入市、忽一人來訊曰、君非此間人。奚至此。告以故、與俱至市口、覓瞽叟已失所在。乃與曲折行數街、抵大宅、如王公之居。歷階及堂、寂無人。戒令少待、頃之、傳呼令

入_ヲ、至_{ルニ}後堂_一、堂中_ニ惟設_ケ一榻_ヲ、有_リ偉男子_ヲ科跣_{せんニシテ}坐_{スル}其上_ノ。髮長_{キコト}及_レ鬚_{シテ}、童子數人執扇_ヲ左右_ヲ侍_ス。抨跪訖_{シキヨリ}、男子訊_{スレバ}來意_ヲ、具對_フ。男子頤指語_{リテ}童子曰_ク、可_{シトモチ}將來_{タル}。即_チ有_{リテ}少年數輩_ヲ扛金_ヲ至_ル。封識宛然_{タリ}。問曰_ク、寧欲得_レ金_ヲ乎_ト。吏叩頭_{シテ}曰_ク、幸甚_{ビナルコト}、不敢_{ハテハ}請也_ト。男子曰_ク、乍來_{タル}此_ヲ、且將息了_セ却去_{レト}。即_チ有_{リテ}人引_{キテ}至_リ一院_ニ、扃門_ヲ而去_ル。日予_ニ三餐_ヲ、皆極_ム豐腴_ヲ。是夜月明_ヲ如昼_ノ、啓_{ヒラキテ}後戶_ヲ視_{ルニ}之_ヲ、見_ル粉壁上累_ヲ累累_ト有_レ物_ヲ。審視_{ルニ}之_ヲ、皆人耳鼻也_。大驚_、然無隙_ヲ可逸_ガ去_。傍徨_{シテ}達曉_ニ、前人忽來_チ傳呼_シ、復至_ル後堂_。男子科跣_{ニシテ}坐_{スルコト}如初_{メテ}、謂曰_ク、金不可_カ得矣_。然當_レ予汝_ニ一紙書_ヲ。輒拋案作書_ヲ、擲_{ハサウチテ}之_ヲ揮出_{アシム}。前人復導_{キテ}至市口_ニ、惝恍_{シヤウ}疑惑_{クハラシテ}疑夢_中、急覓_{メテ}路歸_ル。見_{ミニエ}中丞_ニ、歷述_{スルニ}前事_ヲ、叱_ス其妄_ヲ。出書呈_{スレバ}之_ヲ、中丞啓緘_レ、忽色變而入_。移時_、伝令_ヲ帰_レ舍_、并釀妻子_ヲ、豁_ス其賠償_ヲ。吏大喜_{ブコト}過望_{ミニ}。久之乃知書中大略_レ斥_テ中丞貪縱_ヲ、謂勿責_{メテ}吏_ヲ償金_ヲ、否則_{ナレバ}某月日夫_ヲ人夜三更睡覺_{スルニ}、髮截_{きヲルルコト}三寸_ヲ、寧忘_{レシ}之乎_ト。問之夫人良然_ニ。始知其劍俠也_。

- (注) ○中丞……巡撫（省の行政長官）の別称。 ○巡撫上江……長江上流域の巡撫になつたといふこと。 ○齋……運ぶ。
 ○扃鑰……戸締まりする」と。 ○門鑰……戸の鍵。 ○宛然……ちゃんとしていること。 ○償官……紛失した金を弁償して公庫に入れること。 ○假……休暇。 ○蹤跡……足跡をたどること。 ○瞽叟……盲目の老人。 ○牌……札。
 ○村疃……村。 ○亭午……正午。 ○市鎮……大きな村。 ○榻……長椅子。 ○科跣……帽子をかぶらずはだしの様。
 ○鼾……ぐるぶし。 ○頤指……あごで指すこと。 ○封識……封印。 ○將息了却去……休息してから行け。 ○豐腴……豊富なこと。 ○粉壁……白い壁。 ○惝恍……訳が分からぬさま。 ○緘……手紙の封。 ○豁……免除する。
 ○三更……真夜中。 ○睡覺……眠ること。

問一 傍線部 a ~ e の読みを、送りがなも含めてすべて現代仮名遣いによりひらがなで記せ。

問一 傍線部 ア を

- (1) すべてひらがなで書き下し文にし、
 (2) 現代語訳せよ。

問三 傍線部 イ を現代語訳せよ。

問四 傍線部 ウ を

- (1) 現代語訳し、
 (2) なぜ中丞がこのような行動を取つたかを説明せよ。

問五 傍線部工を

(1) 現代語訳し、

(2) 手紙にこのことを書いた目的を説明せよ。